



SUSTAINABLE

CAMPUS REPORT 2019

Mejiro University and Mejiro University College



発刊によせて > INTRODUCTION

本学は2011年4月に「目白学園環境宣言」を採択して以来、学校法人目白学園「地球環境の保全及び低炭素社会への貢献」推進委員会を中心として、地球環境問題の解決と持続可能な社会の実現に向けた組織的な取り組みを積極的に推進してきましたが、2019年4月よりさらにこれを進化させ、学校法人目白学園「エコキャンパス及びSDGsプロジェクト」推進委員会を発足させて、SDGsの達成と持続可能な社会の実現に向けた特色ある取り組みを、全学を挙げて推進していくことになりました。それにともなってこれまでの「エコキャンパスレポート」は号より「サステナブルキャンパスレポート」と改称し、内容的にもエコ中心からサステナビリティへの拡大を図ることになりました。



SDGs (Sustainable Development Goals) とは、2015年の国連サミットにおいて採択され、2030年までに全世界が達成をめざす人類共通の行動目標です。「持続可能な開発目標」と訳され、17のゴールと169のターゲットから構成されています。

> SDGs WRAPPING

SDGs ラッピング

2019年5月、新宿キャンパスの10号館エントランスと、さいたま岩槻キャンパスのコミュニティ・プラザKiriに、ひときわ目をひく「SDGsラッピング」が設置されました。学生たちは、休み明けに突如出現したカラフルなラッピングに驚いた様子。大きなQRコードをスマートフォンで読み込んだりして、話題にしながら授業に向かっていきました。じつはこのラッピングに印刷されたQRコードを読み込むと、本学のSDGsサイトにアクセスできる仕組みになっています。本学において当初SDGsは認知度がきわめて低かったため、まずは認知度アップのための仕掛けづくりから始めました。



新宿キャンパス SDGs ラッピング



さいたま岩槻キャンパス SDGs ラッピング

> SDGs WEBSITE

SDGs サイト

本学SDGsサイト(<https://www2.mejiro.ac.jp/sdgs/>)では、「目白学園ではSDGsの普及に取り組んでいます」をスローガンに、「SDGs関連NEWS」のコーナーで、各学部学科・研究科・研究室や全学における取り組みを、SDGsの17目標に関連付けながら(関連するロゴを貼り付けて)紹介しています。また「SDGs事例紹介」のコーナーでは、SDGsプロジェクト推進委員やSDGsに取り組んでいる教員の専門分野、教育・研究、社会貢献活動などに関する紹介が並んでいます。SDGsサイトのベースとなったEco Campusサイト(<https://www.mejiro.ac.jp/eco/>)にもリンクを張っています。さらに「SDGs関連科目」や「SDGs取組宣言」などが追加され、本サイトはまだ発展途上ではありますが、本学におけるSDGs普及のための強力なツールとなっています。



SDGsサイト

> ACADEMIC MOOK

東洋経済 SDGs大学特集

2019年7月、東洋経済新報社の『東洋経済ACADEMIC』で「SDGsに取り組む大学特集」の企画が生まれ、文部科学省のメッセージや国連関係者の対談、産業界からの提言などにつづき、「未来を創る大学の実践」のコーナーにおいて、SDGsの重要性を認識し未来を切り開く取り組みを進める19大学のひとつとして目白大学・目白大学短期大学部の取り組みが紹介されました。本学の紹介ページは、「第一に、受験生とその保護者を第一読者として、本学らしい(育てて送り出す)教育活動に焦点を当て、分かりやすく親しみやすい内容となるよう心がける」、「第二に、学部学科の網羅的な紹介ではなく、SDGsの17ゴールの中から3つ程度にテーマを絞り、学生たちのユニークな(とんがった)取組事例を取り上げる」など、独自の編集方針のもとに構成されています。



東洋経済 SDGs 大学特集

> ECO ACTION

エコアクション

ECOアクションは、学生自らが企画し実施する環境プロジェクト。「環境問題という地球規模の問題に対して、私たちはどんなことができるでしょうか?地球のため、未来のため、どんな小さな取り組みでも構いません。足元から、今日から、なにか行動(アクション)を起こしましょう!」との呼びかけに対して、9回目となる2019年度は7件の意欲的な応募があり、その環境マインドとアクション性が評価され採択されました。桐和祭(学園祭)では、実施された企画の成果報告(中間報告)のパネル展示が行われました。



3my運動



SDGsメッセージ



SDGsステッカー



ハーバリウム

2019年度 採択・実施企画一覧

- 1 ペットボトルで作る簡単インテリア
～洗濯のりのハーバリウム～
(子ども学科 西山ゼミ)
- 2 ハーバリウムを作るだけで
子ども食堂の寄付に!?
(児童教育学科 山本ゼミ)
- 3 No!使います。Yes! 3my
～ペットボトル、はし、ビニールぶくろ
それ必要ですか～
(児童教育学科 石田ゼミ)
- 4 廃品を使って工作をしよう!
(児童教育学科 新聞委員)
- 5 池を自然に近づけよう!!
(コーディネーター・ファシリテーター演習TEAM)
- 6 SDGs推進に向けた若者からのメッセージ
(地域社会学科 飛田ゼミ)
- 7 SDGsステッカープロジェクト
(地域社会学科 SDGs研究会)

2019年度は本学にとって、一つの節目の年になるかもしれません。というのも、全学を挙げたエコキャンパス作りに加えて、SDGsの達成に向けた動きが本格化したからです。それに伴って、これまで発行されていたこの「エコキャンパスレポート」も、今号より「サステナブルキャンパスレポート」と名称が変わり、その内容も拡大されました。目白大学の特長を挙げるとき、新しく「SDGsに力を入れている大学です」と胸を張って言えるようになりました。SDGsの達成のためには、新しく何かを始めるというだけでなく、我々がこれまで続けてきた多くの取り組みが、SDGsの趣旨に関わっていることを改めて確認し、どのように継続・発展していったらよいのかを考えることが必要です。本学の社会的使命である「育てて送り出す」の精神は、SDGsの「誰一人取り残さない (leave no one behind)」を意識することで、よりその意義が明確になると感じています。



> ECO PRO

エコプロ展

2019年12月5日～7日、東京ビッグサイトで開催された「エコプロ2019～持続可能な社会の実現に向けて～」に目白大学が出展しました。「エコプロ」は今年で21回目を迎えた日本最大級の環境展。3日間で15万5千人以上の来場者を記録しました。7回目の出展となる本学は、会場の制約から例年よりブースが小さめでしたが、「全学的ECO×SDGsプロジェクトの推進」をスローガンに掲げ、児童教育学科1・2年生有志、同学科石田ゼミ、地域社会学科飛田ゼミの3団体が出展。さらに教職員より目白学園エコキャンパス及びSDGsプロジェクト推進委員会が出展しました。参加した21名の学生たちは、ゼミや授業で取り組んできたエコアクションやプロジェクトについて、パネルの展示やチラシの配布、パソコンによるプレゼンテーションやSDGs理解度チェックの実施など、工夫を凝らした企画を披露していました。



エコプロ展

> ACTIVITIES

SDGs活動



医療技術でスポーツをサポート

さいたま岩槻キャンパス保健医療学部理学療法学科がバックアップしている部活動「スポーツサポートセンター」では、スポーツを「支えて楽しむ」をキーワードとして、さいたま国際マラソンランナーケアブース、東京都及び埼玉県の車椅子テニス大会フィジオブース、全国ろうあ者体育大会トレーナーセッション、ラグビー東日本トップクラブリーグ試合サポートなどのスポーツフィールドで、ストレッチやマッサージ、テーピングや運動指導など、大学で学んだ理学療法の知識と技術を選手や参加者たちに提供しています。このうちさいたま国際マラソンは、大学とさいたま市との包括連携協定の一部でもあり、地域の社会貢献としての意義も合わせ持ちます。2019年12月8日に第5回さいたま国際マラソン大会が開催された折にも、スポーツサポートセンターの部員が中心となってランナーケアブースを運営し、278人のランナーが利用するほどの大盛況でした。



自治体と連携し商店街を活性化

地域連携・交流事業の組織的な取り組みをミッションとする、本学「地域連携・研究推進センター」直属の学生団体として、学部・学科を横断する形で「商店街もりあげ隊」が結成されました。大学と包括連携協定を結んでいる自治体・団体とともに、地元の方が取り組んでいる「持続可能なまちづくり」に、目白大学の学生も貢献しています。2019年度の実績としては、としま南長崎トキワ荘協働プロジェクト協議会の「夢の虹」イベント(豊島区)、「目白銀座商店会ハロウィンパーティ」(新宿区)、「西落合ハロウィン」(新宿区)、「目白通り商いの会・目白フォトコンテスト」(新宿区)などに参加しました。このうち10月27日に実施された「目白銀座商店会ハロウィンパーティ」では、コスプレをして、ウォークラリーのガイド、交通整理、屋台でのゲームマスターなどに携わりながら、地域の幅広い世代が楽しめるイベントとしてハロウィンを盛り上げました。

> LECTURES

SDGs講演会



多文化共生のまちづくり

2019年11月13日、目白大学人間学部講演会「新宿区における多文化共生について学ぶ」が開催され、その第一部では「新宿区での多文化共生のまちづくりの現状と課題として」というテーマで、新宿区地域振興部多文化共生推進課課長の神崎章氏より、また第二部では「日本での経験と明日の日本へ」というタイトルで、NPO法人PEACE理事長で、日本在住ミャンマー人の支援に尽力するマリッパ・セン・ブ氏より、それぞれ講演いただきました。新宿区は市区町村の中でも外国人人口と人口比率がきわめて高い自治体です。また現在、出入国管理及び難民認定法(入管法)の改正も行われ、今後日本国内のグローバル化がさらに進むことが予想されます。最近では多文化共生ということが盛んに言われるようになりましたが、これを実現するためには相当な努力が必要となります。新宿という場に立地している本学にとってきわめてタイムリーな講演会を実施することができました。



SDGsとエシカル消費

2019年7月20日、目白大学大学院国際交流研究科「第5回公開講演会」が開催され、日本エシカル推進協議会及び国際グリーン購入ネットワーク会長で、東京都市大学名誉教授の中原秀樹氏を講師としてお招きし、「SDGsとエシカル消費～持続可能な消費とは何か～」というテーマでご講演いただきました。「地球環境の継続的悪化の主な原因は、持続不可能な消費と生産のパターンにある」として、私たちはイースター島の悲劇を繰り返すことになるのか、最近多発する異常気象、食料不足や環境難民などの問題を受けて、国連サミットでSDGsが採択された経緯が紹介されました。じつに約90分で100枚を超えるスライドを使って、豊富な話題を次々と繰り広げ、しかも分かりやすく語りかけながらお話しいただき、参加者はSDGsの理念やエシカル消費への関心を深め、とても有意義な時間を過ごすことができました。

目白大学の環境対策

省エネルギー対策

- ソーラーシステム
- 集中制御空調システム
- 高効率空調システム
- ヒートポンプ式給湯器
- 人感センサー



太陽光発電

- 省エネ照明 (LED、インバーター式蛍光灯)
- 氷蓄熱システム
- 風力発電
- 目白学園電気予報



高効率空調機

緑化対策

- 700種類以上の樹木管理
- 屋上緑化
- 緑のカーテン
- 透水性インターロッキング



氷蓄熱システム

省資源対策

- 中水道システム
- 空き缶回収装置
- 再生紙の利用
- 傘のシェアリングサービス



屋上緑化

その他の対策

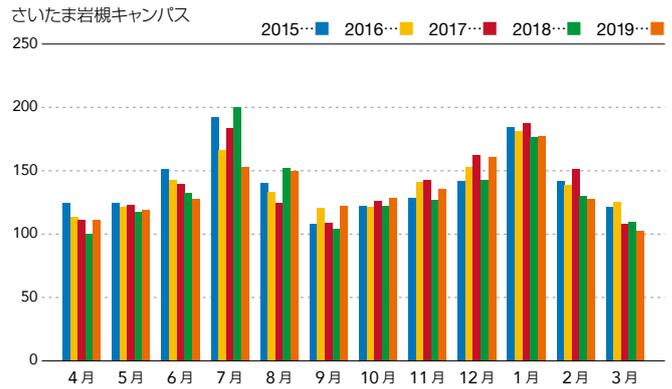
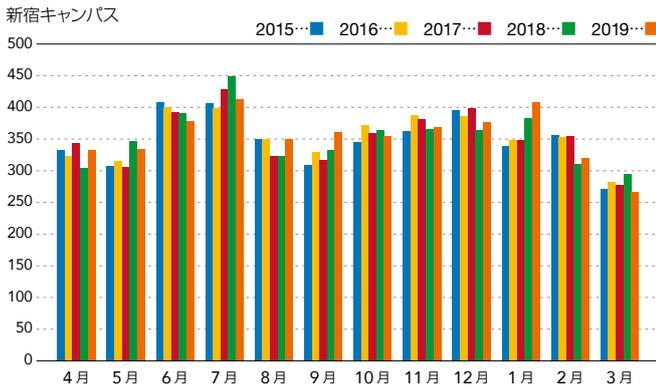
- ごみの分別
- UVカット窓ガラス
- グラウンドの砂埃防止
- 喫煙所以外の全面禁煙



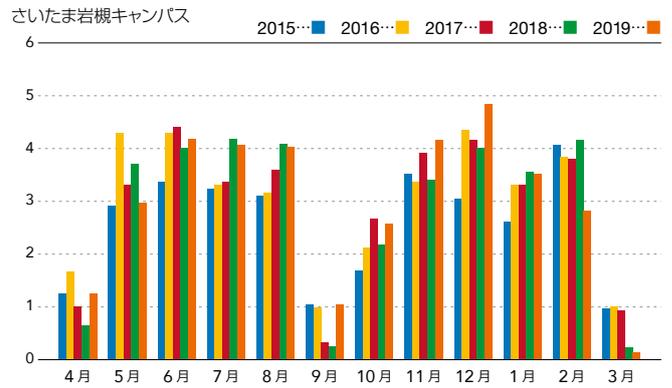
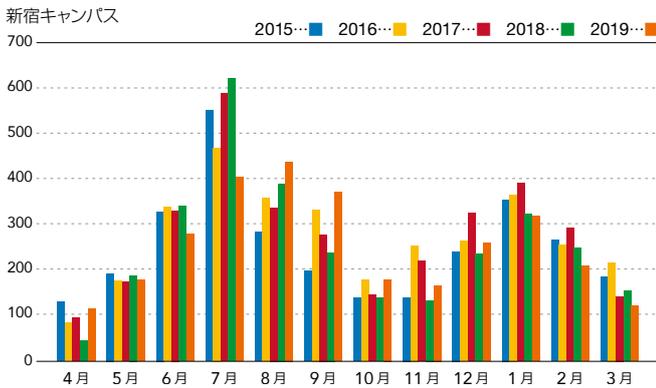
中水道システム

環境負荷データ > DATA

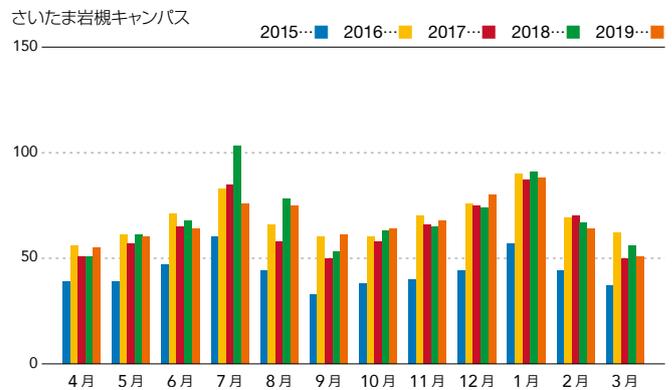
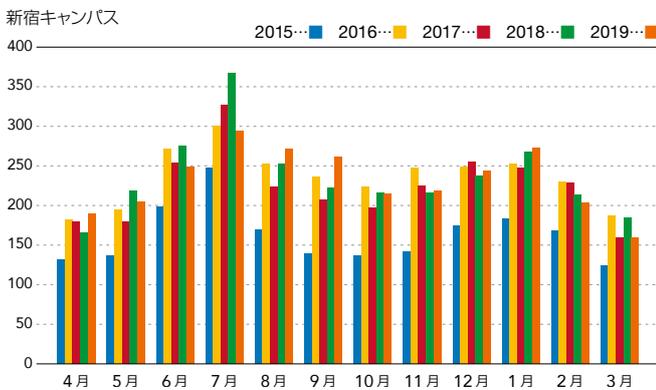
■ 電気使用量 (単位:千kwh)



■ ガス使用量 (単位:百m³)



■ CO2排出量 (単位:t)



■ 新宿キャンパス 東京都新宿区中落合 4-31-1 TEL:03-5996-3117
■ さいたま岩槻キャンパス 埼玉県さいたま市岩槻区浮谷 320 TEL:048-797-2222
<https://www.mejiro.ac.jp>



設置者	学校法人目白学園 (理事長 尾崎 春樹)	
目白大学	設立年	1994年 目白大学設置
	学生数	5,648名(2020年5月1日現在)
	設置学部・学科	心理学部 心理カウンセリング学科(2020年4月開設) 人間学部 心理カウンセリング学科/人間福祉学科/子ども学科/児童教育学科 社会学部 社会情報学科/メディア表現学科/地域社会学科 メディア学部 メディア学科(2018年4月開設) 経営学部 経営学科 外国語学部 英米語学科/中国語学科/韓国語学科/日本語・日本語教育学科 保健医療学部 理学療法学科/作業療法学科/言語聴覚学科 看護学部 看護学科 大学院 国際交流研究科/心理学研究科/経営学研究科/生涯福祉研究科/言語文化研究科 看護学研究科/リハビリテーション学研究科
	目白大学短期大学部	設立年 1963年 目白学園女子短期大学設置(2000年目白大学短期大学部に名称変更・改組)
		学生数 364名(2020年5月1日現在)
		設置学科 生活科学科/製菓学科/ビジネス社会学科/歯科衛生学科(2019年4月開設)

